

5. 小平の水車変遷

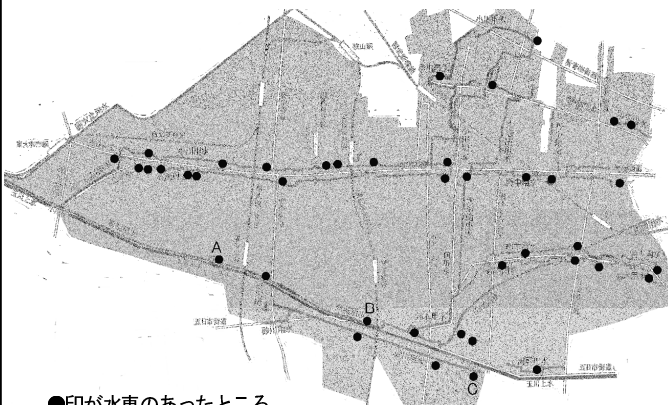
安政4年(1857) 小平の水車稼ぎ人

鈴木新田 惣右衛門代又右衛門、定右衛門、長十郎
 野中新田 善左衛門、弥五左衛門代仲右衛門、源八、
 武兵衛、長右衛門、藤右衛門
 大沼田新田 弥左衛門、伝兵衛
 廻り田新田 忠助、庄兵衛
 上 鈴木 五郎兵衛
 小川村 九一郎
 小川新田 弥一郎、日向

「小平町誌」より

幕末以後、小平は雑穀生産地帯として成長した。これをもとに明治30年(1897)前後、水車は完全に出揃い隆盛を極めた。この頃水車は小平で約40箇所あった。

明治30年前後の水車分布



●印が水車のあったところ

A 小島水車 B 清水水車 C 高杉水車

小平町誌などから作成

水車の衰退

その後約40年の間に次々と消滅していった。その原因は水力から、蒸気・電力への動力源の転換と、高効率の機械製粉機の出現や製粉企業の進出など。また、産業形態が原料加工品の供給から、原料そのものを供給する形態へと移行した。昭和25年(1950)頃玉川上水の水車量減もあり、次々とその使命を終えていった。

6. 市内の水車遺構

小島水車 明治7年(1874)5月に小川弥次郎が、今の新小川橋北にある小島精米店の西側の新堀用水に設置した水車を、明治39年(1906)小島啓助が買い受けた。水輪の直径7.20m(2丈4尺)、水輪の幅84cm、挽臼6台、搗杵20本、排水方式は胎内掘り(ほっこ抜き)

この水車は昭和25年頃まで稼動していた。現在、新堀用水に「堰跡」、北側の山林内に「回し堀の築樋跡」、水輪に水をかけた「海老樋」などが残っている。近くの「水車通り」や「水車橋」はこの水車に由来する。

清水水車 (写真参照)

水輪の直径 約3.3m(1丈1尺)、搗臼 1斗張10台
 明治32年(1899)新設され、昭和25年頃まで稼動した。新堀用水に回し堀への堰跡が残る。

高杉水車 茜屋橋の南西、高杉商店前の砂川用水にあった。この水車は用水本流に直接仕掛けられ、南側に「く」の字型に余水や水車を止めるときに流す水路があった。

砂川用水がこの先しばらくの間、暗渠となっているのはこの水車の排水をほっこ抜きで流した名残である。

豆知識

水車の爆発事故

ペリー来航で慌てた幕府は各地で水車を使った火薬の製造を行った。安政2年(1855)、鈴木新田の定右衛門所有の水車(今の鈴木小学校付近)を幕府が買い上げ、幕府御用の「焰硝合薬搗立所(えんしょうごうやくつきたてしょ)」とした。水車を使い火薬の製造をしていたが、この年10月に爆発事故を起こした。

この前年、安政元年の6月には、玉川上水から神田上水への助水堀にあった「淀橋水車」が爆発事故を起こすなど、この頃各地で火薬製造水車の爆発事故があった。(淀橋水車は再建され昭和11年ごろまで利用された)

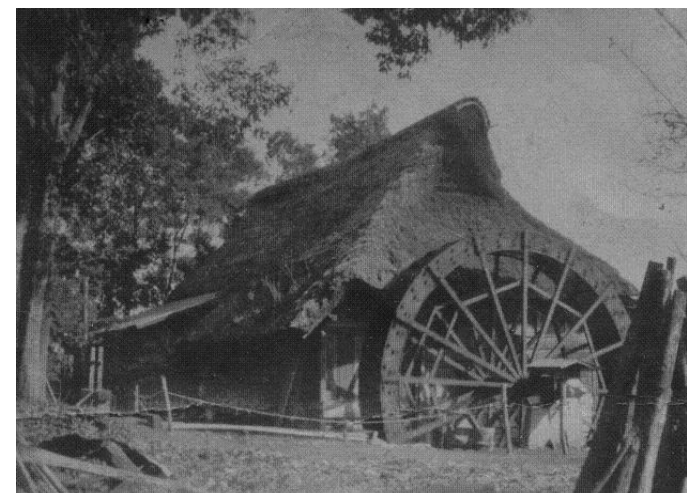
図書館「水車の館マーク」

小川西図書館の蔵書に貼られている水車の館マークは、小川村に玉川上水からの分水を利用した農業用水車が江戸時代から昭和の時代まであったことに由来する。



玉川上水ワンポイントガイド No.6

玉川上水の水車



新堀用水・桜橋付近にあった清水水車 (昭和9年・1934)

シリーズ 玉川上水ワンポイントガイド

No	テーマ
1	玉川上水の概要
2	玉川上水の分水
3	玉川上水の分水・小平編
4	玉川上水と小平周辺の新田開発
5	玉川上水の橋
6	玉川上水の水車
7	玉川上水の通船・船溜り
8	玉川上水の樹木・野草・野鳥
9	玉川上水と小金井サクラ
10	玉川上水あれこれ
11	玉川上水お勧め散歩ガイド

発行 2007年9月

発行 小平・玉川上水再々発見の会
 E-mail tamagawasaisai@yahoo.co.jp
 代表 庄司徳治